

日本語研修コース(27期・28期)
(年次報告(平成25年度後期・26年度前期) I
日本語・日本事情教育)

| | |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-03-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 熊井, 浩子 メールアドレス: 所属: |
| URL | https://doi.org/10.14945/00008116 |

I 日本語・日本事情教育

日本語研修コース27期・28期

熊井 浩子

1. コースの概要

25年度後期（第27期）は、正規生としては教員研修留学生1名、協定校からの交換留学生2名が非正規生として日本語1を受講した。非正規生の2名は、国で3年程度日本語を勉強した既習者であり、当初は日本語教育プログラムに出席していたが、むずかしすぎるといことで、復習もかねてゼロスタートクラスに参加した。タイプや得意分野の異なる3名であったが、既習者である協定校学生1名が他の2名をひっぱっていく形で授業が進められ、非正規生2名については一定の成果を上げることができた。しかし、正規生1名は文化の違いや学習スタイルの関係もあり、試験の点数では基準をクリアしているものの、これまでの学習者に比べてコミュニケーション力という点ではまだまだ不十分な状態であった。

このため、26年前期（第28期）についても、この学生1名が非正規生という形で引き続き日本語1を受講した。新しいやり方に慣れるのに時間がかかる学生のタイプを考慮して、同じテキストを使用し、文型を復習しつつコミュニケーション力を高めるための練習を豊富に取り入れた結果、最終的には基本的なコミュニケーション能力を身に付けることができた。なお、この関係で28期は新規渡日者を対象とした「日本の生活」は開講せず、代わりに「総合練習」の時間を設けた。

その結果、27期・28期ともに、全受講者が80%以上の出席及び所定の定期試験を受験するという修了要件を満たしたため、正規生には修了証、非正規生には受講証が授与された。

2. 授業期間

第27期 平成25年10月8日～平成26年2月10日 15週

第28期 平成26年4月10日～平成26年7月29日 15週

3. 第27期

3. 1. クラス編成

| クラス | 受講者 | 国 | 所属・在籍身分 |
|------|-----|-------|-----------------------|
| 日本語1 | 1 | ラオス | 教育学研究科・研究生（教員研修留学生） |
| | 2 | アメリカ* | 人文学部・特別聴講学生（協定校交換留学生） |
| | 3 | アメリカ* | 人文学部・特別聴講学生（協定校交換留学生） |

*：非正規生

3. 2. 時間割

日本語1

| | 月曜日 | 火曜日 | 水曜日 | 木曜日 | 金曜日 |
|----------------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 1・2時限 8:40～10:10 | 基礎日本語 | 基礎日本語 | 基礎日本語 | 基礎日本語 | 基礎日本語 |
| 3・4時限 10:20～11:50 | 基礎日本語 | 基礎日本語 | 基礎日本語 | 基礎日本語 | 基礎日本語 |
| 5・6時限 12:45～14:15 | 漢字 | 作文 | 聴解 | 日本の生活 | 会話 |

3. 3. 授業内容

日本語Ⅰ（入門）

目標：日本語の基礎的な構造・表記を学び、日常生活における基本的なコミュニケーション力を身に付ける。

基礎日本語 10コマ／週

目的：日本語の基本的な構造・表記を理解し、日常的なコミュニケーションの基礎を身につける。

内容：初級文型の総合的なコミュニケーション練習

使用教材：『みんなの日本語 本冊』初級Ⅰ・Ⅱ（スリーエーネットワーク）

『みんなの日本語 翻訳・文法解説 英語版』初級Ⅰ・Ⅱ（同上）

『日本語かな入門 英語版』（国際交流基金）

会 話 1コマ／週

目的：既習項目を使って、日常生活のさまざまな場面で、いろいろな活動・コミュニケーションができるようになる。その活動をとおして、異文化の考え方・習慣を学ぶ。

内容：基礎日本語の既習事項の運用練習。日本語ネイティブスピーカーとの会話。校外学習の計画作り。

使用教材：適宜

聴 解 1コマ／週

目的：日本語の音声から必要な情報を得られるようになる。

日常生活において基本的なコミュニケーションができるようになる。

内容：CD・テープ・ビデオなどを使った聞き取り練習及び発音練習。

使用教材：『聴解タスク25』初級Ⅰ・Ⅱ（スリーエーネットワーク）

『楽しく聞こう』（文化外国語専門学校）等適宜

作文 1コマ／週

目的：既習の語彙や文型を文章の中で適切に使えるようにする。さまざまなテーマで作文を書くことによって、語彙・表現を増やす。

内容：全体的な構成を意識しながら、日常的なトピックについて作文を書く・文集作成

使用教材：『やさしい作文』（スリーエーネットワーク）

漢字 1コマ／週

目的：日常生活・勉学生活に必要な基本的漢字の読み書きを身につける。

日本語研修コース修了後も自分で学習を継続できるような漢字学習法を学ぶ。

内容：初級前半の漢字の読み・書き、読解

使用教材：『みんなの日本語 漢字 英語版』Vol.1（スリーエーネットワーク）

『みんなの日本語 初級で読めるトピック25』（スリーエーネットワーク）

日本の生活 1コマ／週

目的：主に新規来日の学生を対象とする。スムーズに日本の生活に適応するため、基礎的な日本文化・社会に対する理解を深める。

内容：日本の文化・習慣など、日常生活で最低限必要なことを学ぶ。校外学習や体験学習を通して、日本文化への理解を深める。

使用教材：適宜

4. 第28期

4. 1. クラス編成

| クラス | 受講者 | 国 | 所属・在籍身分 |
|------|-----|------|---------------------|
| 日本語1 | 1 | ラオス* | 教育学研究科・研究生（教員研修留学生） |

*：非正規生

4. 2. 時間割

日本語1

| | 月曜日 | 火曜日 | 水曜日 | 木曜日 | 金曜日 |
|----------------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 1・2時限 8:40～10:10 | 基礎日本語 | 基礎日本語 | 基礎日本語 | 基礎日本語 | 基礎日本語 |
| 3・4時限 10:20～11:50 | 基礎日本語 | 基礎日本語 | 基礎日本語 | 基礎日本語 | 基礎日本語 |
| 5・6時限 12:45～14:15 | 漢字 | 作文 | 聴解 | 総合練習 | 会話 |
| 7・8時限 14:25～15:55 | | | | | |

4. 3. 授業内容

日本語 I (入門)

目標：日本語の基礎的な構造・表記を学び、日常生活における基本的なコミュニケーション力を身に付ける。

基礎日本語 10コマ/週

目的：日本語の基本的な構造・表記を理解し、日常的なコミュニケーションの基礎を身につける。

内容：初級文型の総合的なコミュニケーション練習

使用教材：『みんなの日本語 本冊』初級 I・II (スリーエーネットワーク)

『みんなの日本語 翻訳・文法解説 英語版』初級 I・II (同上)

『日本語かな入門 英語版』(国際交流基金)

会 話 1コマ/週

目的：既習項目を使って、日常生活のさまざまな場面で、いろいろな活動・コミュニケーションができるようになる。その活動をとおして、異文化の考え方・習慣を学ぶ。

内容：基礎日本語の既習事項の運用練習。日本語ネイティブスピーカーとの会話。

使用教材：適宜

聴 解 1コマ/週

目的：日本語の音声から必要な情報を得られるようになる。

日常生活において基本的なコミュニケーションができるようになる。

内容：CD・テープ・ビデオなどを使った聞き取り練習及び発音練習。

使用教材：『聴解タスク25』初級Ⅰ・Ⅱ（スリーエーネットワーク）
『楽しく聞こう』（文化外国語専門学校）等適宜

作文 1コマ／週

目的：既習の語彙や文型を文章の中で適切に使えるようにする。学習者の専門に関する語彙・表現を増やす。

内容：日常的なトピックに加え、初級文型を運用できる範囲で、専門に関連したトピックの作文を書く。文集作成。

使用教材：『やさしい作文』（スリーエーネットワーク）他、適宜

漢字 1コマ／週

目的：日常生活・勉学生活に必要な基本的漢字の読み書きを身につける。
日本語研修コース修了後も自分で学習を継続できるような漢字学習法を学ぶ。

内容：初級前半の漢字の読み・書きの復習

使用教材：『みんなの日本語 漢字 英語版』Vol.1（スリーエーネットワーク）

『みんなの日本語 初級で読めるトピック25』（スリーエーネットワーク）

総合練習 1コマ／週

目的：日本語研修コースでの既習項目を総合的に運用できるよう、4技能のさらなる向上を目指す。

内容：基礎日本語クラスの教科書の副教材であるDVDを用い、復習を中心に、応用的な項目も紹介する。視聴覚教材を用いることで、文化的差異への気付きも促す。

使用教材：『みんなの日本語』初級Ⅰ DVD（スリーエーネットワーク）

平成25年度日本語予備コース（第5期）

袴田 麻里

1. コースの趣旨と目標

14年度後期より開講してきた学部入学前予備教育プログラム（日韓理工系学部留学生コース）を、21年から研究生向けに変更し後期にのみ開講している。

本コースは、修士課程進学を前提に本学で研究生として在籍する留学生に対して、大学院受験に足る、また、修士生として勉学できる日本語能力（日本語能力試験2級以上）を身に付けさせることを目標としている。中級から上級レベルの語彙、文法、漢字能力の補強、発話能力、作文能力の育成を行った。